

遺伝子パネル検査用 検体採取方法について

提出検体：ホルマリン固定パラフィンブロック

① 出来るだけ大きな検体提出をお願いします。

FFPE 標本薄切時の検体の面積は 25 mm² 以上が推奨です。生検材料の場合は、面積が推奨の 25mm² と比べて格段に小さいことが多いので、核酸量を確保するために枚数を相当数増す必要があります。尚、厚みと枚数の関係は、掛け算で同じ数値であれば概算では同じ核酸量を期待できます。

② 薄切標本上に腫瘍細胞割合 30%以上が必要です。

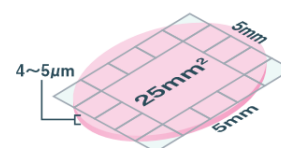
切片の腫瘍含有率が 30% 以上の場合はそのまま削り取り、それ以下の場合は 30% 以上含むように切片を削り取るようになります（マクロダイセクション）。その後、核酸抽出処理を行います。

③ 固定は、10%中性緩衝ホルマリン液にて、6~72 時間以内が推奨条件です。
なお、検体採取後は速やかに固定液に浸漬してください。

高濃度ホルマリンによる DNA の損傷や長時間固定による過固定が、検査に必要な核酸の質を損なうことがあります。固定条件を逸脱した場合は、検査不能となる可能性があります。

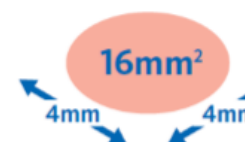
【FoundationOne CDxの場合】

未染色スライド 5 mm × 5 mm 厚さ 4~5 μm . . . 10 枚程度



【NCC オンコパネルの場合】

未染色スライド 4 mm × 4 mm 厚さ 10 μm . . . 5 枚程度



問合せ先

徳山中央病院 臨床検査部 病理 0834-28-4411（内線 7324）担当：岡田